



2017年10月31日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社  
代表者 代表取締役社長 CEO 畑中 好彦  
コード番号 4503  
(URL <https://www.astellas.com/ja>)  
東証 ( 第 一 部 )  
決算期 3月  
問い合わせ先 広報部長 臼井 政明  
Tel: (03)3244-3201

## 2017年度第2四半期の連結業績について

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、2018年3月期(以下「2017年度」)第2四半期累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日)の連結業績を発表しましたのでお知らせします。

### 【当第2四半期累計期間の業績ハイライト】

- グローバル皮膚科事業の譲渡(2016年4月)および日本における長期収載品の譲渡(2017年4月)等の影響により、売上高(前年同期比1.8%減)、コア営業利益(同18.1%減)は減少。為替と当期に特有の事業譲渡の影響を除いたベースでは、売上高(同1.9%減)、コア営業利益(同2.7%減)は減少。
- 前立腺がん治療剤 XTANDI®/イクスタンジ®、過活動膀胱(以下「OAB」)治療剤ベタニス®/ミラベトリック®/ベツミガの売上が引き続き拡大。
- 持続的な成長に向けた戦略課題への取り組みを着実に推進。

アステラス製薬の代表取締役社長 CEO の畑中 好彦は、次のように述べています。「当第2四半期は、主要グローバル製品である前立腺がん治療剤 XTANDI®/イクスタンジ®、OAB 治療剤ベタニス®/ミラベトリック®/ベツミガ等がけん引し、ビジネスは順調に推移しました。また、非転移性去勢抵抗性前立腺がん患者を対象に実施していたエンザルタミドの第III相 PROSPER 試験で良好な結果が得られるなど、開発プロジェクトが着実に進展しました。さらに、中長期にわたる持続的な成長シナリオを盤石なものとするために、経営資源配分の見直しも継続的に進めています。このように、私たちは経営計画で掲げる『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』の3つの戦略課題への取り組みを引き続き推進し、革新的な医療ソリューションを創出していくことで、患者さんをはじめとしたステークホルダーに価値を届けていきます。」

<連結業績(2017年4月1日から2017年9月30日):コアベース> (単位:百万円)

	前第2四半期累計 (2017年3月期)	当第2四半期累計 (2018年3月期)	増減額 (増減率)
売上高	651,673	<b>639,754</b>	△11,919 (△1.8%)
コア営業利益	166,455	<b>136,353</b>	△30,102 (△18.1%)
コア四半期純利益	120,569	<b>106,638</b>	△13,932 (△11.6%)

【売上高の状況】

売上高は、2016年4月に行われたグローバル皮膚科事業の譲渡および2017年4月に行われた日本における長期収載品の譲渡等の影響により、6,398億円(前年同期比1.8%減)となりました。

• がん領域フランチャイズ

XTANDI®/イクスタンジ®の売上高は1,403億円(同11.4%増)となりました。米国の売上は前年同期と同水準で推移しましたが、日本、米国を除く米州、EMEA\*1およびアジア・オセアニアでは売上が順調に拡大しました。

• 泌尿器 OAB フランチャイズ

ベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガの売上高は576億円(同26.0%増)となりました。日本、米州、EMEAおよびアジア・オセアニアの全ての地域で売上が増加しました。一方、ベシケア®の売上高は497億円(同16.9%減)となりました。

• 移植フランチャイズ

プログラフ®の売上高は993億円(同5.4%増)となりました。EMEAおよびアジア・オセアニアで引き続き伸長しました。

- その他の新製品・主要製品の状況

日本市場では、消炎鎮痛剤セレコックス<sup>®</sup>、成人気管支喘息治療剤シムビコート<sup>®</sup>、2型糖尿病治療剤スーグラ<sup>®</sup>、成人関節リウマチ治療剤シムジア<sup>®</sup>等が引き続き成長しました。また、2016年4月に高コレステロール血症治療剤レパーサ<sup>®</sup>、2017年3月に便秘型過敏性腸症候群治療剤リンゼス<sup>®</sup>を新発売し、市場への着実な浸透を図っています。米州では、アゾール系抗真菌剤クレセンバの売上が拡大しました。

(主要3領域の売上高)

(単位:億円)

	前第2四半期累計 (2017年3月期)	当第2四半期累計 (2018年3月期)	増減率
がん領域フランチャイズ	1,539	1,678	+9.1%
XTANDI <sup>®</sup> /イクスタンジ <sup>®</sup>	1,260	1,403	+11.4%
泌尿器 OAB フランチャイズ	1,055	1,073	+1.7%
ベシケア <sup>®</sup>	598	497	△16.9%
ベタニス <sup>®</sup> /ミラベトリック <sup>®</sup> /ベットミガ <sup>®</sup>	457	576	+26.0%
移植フランチャイズ	942	993	+5.4%

### <地域別の売上高\*2>

日本、米州、EMEAは減少、アジア・オセアニアは増加しました。このうち日本市場での売上高は、2017年4月に行われた長期収載品16製品の譲渡および2017年6月に高血圧治療剤ミカルデイス<sup>®</sup>の後発医薬品が発売された影響等により1,941億円(同12.5%減)となりました。また、EMEAは2016年4月に行われたグローバル皮膚科事業譲渡の影響により減収となりましたが、その影響を除くと増収となりました。

### 【2017年度連結業績予想(コアベース)】

当第2四半期累計期間の状況と為替の動向を踏まえ、2017年4月に公表しました業績予想(以下、「期初予想」)から売上高、コア営業利益およびコア当期純利益をいずれも上方修正しています。なお、想定為替レートを変更したことにより、期初想定の為替レートを適用した場合と比べ、売上高、コア営業利益においてそれぞれ202億円、38億円の増加となる見込みです

<通期連結業績予想(コアベース)>

(単位:百万円)

	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期予想	増減額 (増減率)
売上高	1,311,665	<b>1,297,000</b>	△14,665 (△1.1%)
コア営業利益	274,554	<b>258,000</b>	△16,554 (△6.0%)
コア当期純利益	213,343	<b>201,000</b>	△12,343 (△5.8%)

フルベースを含め 2017 年度第 2 四半期連結業績の詳細、およびその他の決算関連情報については、当社ホームページ(<https://www.astellas.com/ja/investors/ir-library>)をご覧ください。

【当第 2 四半期における戦略課題への取り組み】

アステラス製薬は、『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』への取り組みを通じて、中長期的にわたる持続的な成長を目指していきます。

<製品価値の最大化>

- XTANDI®/イクスタンジ®を中心とするがん領域フランチャイズおよびベシケア®とベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガを合わせた OAB フランチャイズの最大化のため、引き続き販売地域および売上を拡大

<イノベーションの創出>

当第 2 四半期における主な開発の進展は以下の通りです。

- 2017 年 9 月、非転移性去勢抵抗性前立腺がん患者を対象としたエンザルタミドの第 III 相 PROSPER 試験で主要評価項目(無転移生存期間の延長)を達成
- フィダキソマイシン(クロストリジウム・ディフィシルによる感染性腸炎): 日本で承認申請(2017 年 7 月)
- レパーサ®皮下注 420 mg オートミニドージャー: 日本で承認取得(2017 年 8 月)
- リナクロチド(一般名、製品名:リンゼス®錠 0.25 mg(慢性便秘症(器質的疾患による便秘を除く)の効能・効果追加): 日本で承認申請(2017 年 9 月)

## <Operational Excellence の追求>

- プロトピック®軟膏(アトピー性皮膚炎治療剤)の製造販売承認を2017年10月1日付でマルホ株式会社に承継することで合意(2017年7月に公表)
- アジェンシス社研究活動の終了を決定(2017年7月)

以上

\*1 EMEA: 欧州・中東・アフリカ

\*2 地域別売上高: 売上元会社の所在地に基づき集計しています。

### 注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。